

ウィキペディア

キャンベラ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

キャンベラ(Canberra:[ˈkænbərə] or [kænˈbrə])^[3]は、オーストラリアの首都。35万8000人の人口を擁し、オーストラリア国内では8番目、同国内陸部では最大の都市である。キャンベラは、オーストラリア首都特別地域(ACT)に属し、シドニーの南西280キロメートル、メルボルンの北東660キロメートルに位置している。キャンベラの住民のことを英語で、Canberranと呼ぶ^[4]。

キャンベラがオーストラリアの首都として選ばれたのは1908年のことであり、同国の二大都市であるシドニーとメルボルンの間の首都をめぐる争いの妥協の産物であった。他のオーストラリアの都市とは異なり、キャンベラは都市全体が計画都市として設計され、誕生した歴史を持つ。キャンベラの都市設計においては、国際的なコンテストが実施され、シカゴの建築家であるウォルター・バーリー・グリフィンとマリオン・マホーニー・グリフィンの計画が1913年に採用された^[5]。グリフィンの都市計画では、キャンベラの街は、円、六角形、三角形などの幾何学模様がモチーフとして採用されている。加えて、街の中心部は、ACTにおけるランドマークとして重要な景観を形成している。

キャンベラの都市デザインは田園都市の影響を大きく受けており、都市区域内には自然の植生の地域を組み込んでいる。キャンベラの建設に際しては、都市計画のために3つの機関が設立されたことから、議論が長期化すると同時に非効率になった。このため、都市の発展が妨げられ、大きく遅れることとなった。第二次世界大戦後、ロバート・メンジーズ首相がキャンベラの整備を指揮し、国立首都発展委員会(NCDC:[en](#))が設立された。ACTは現在では、地方自治が展開されている一方で、オーストラリア連邦政府は、国家首都局(NCA:[en](#))を通じて、キャンベラの都市開発に大きな影響力を保持している。

オーストラリアの首都機能を有するため、キャンベラには、国会議事堂、高等裁判所、さまざまな官庁がある。首都機能のみならず、キャンベラには、オーストラリア戦争記念館(en)、オーストラリア国立大学、オーストラリア国立スポーツ研究所、オーストラリア国立美術館(en)、オーストラリア国立博物館、オーストラリア国立図書館といった多くの社会的、文化的な施設がある。オーストラリア陸軍の教育機関として、王立軍事天学があり、オーストラリア国防大学もキャンベラに存在する。

目次

語源

歷史

- 首都決定
建設開始

地理

- 気候
都市構造

行政

- 地方自治
国政

經濟

人口統計

教育

文化

- 芸術・娯楽
スポーツ

インフラストラクチャー

- 医療
輸送
その他の公共インフラ

キャンベラ
Canberra
<div><div><div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div><div><div><div></div></div></div></div></div></div> <div>左上から時計回りで、国会議事堂、オーストラリア戦争記念館、キャンベラ市街を貫く国会議事堂・ANZACバレード・オーストラリア戦争記念館、ブラック・マウンテン・タワー、オーストラリア国立図書館、オーストラリア国立大学</div>
<div><div><div><div><div></div><div>市旗</div></div><div></div></div><div><div><div></div><div>市章</div></div><div></div></div></div></div>
位置
<div><div><div><div><div></div></div></div><div></div></div></div> <div>キャンベラの位置</div>
<div><div><div><div><div></div></div></div><div></div></div></div>
<div><div>座標：南緯35度18分27秒 東経149度07分27.9秒</div></div>
歴史
<div>設立日 1913年3月12日</div>
行政
<div>国<div> オーストラリア</div></div>
<div>州<div> オーストラリア首都特別地域</div></div>
市 キャンベラ
地理

対外関係

姉妹都市

提携都市

脚注

参考文献

外部リンク

語源

キャンベラの語源のうち、広く知られているのは、先住民族の言葉であるNgunnawal語のKamberaが由来で、「人々が集う場所」と言う意味である^[6]。

一方、1860年代に、ケアンピヤン(en)の新聞社のオーナーであったジョン・ゲールが報告した内容によると、先住民の言語で「女の胸の谷間」を意味する「nganbra」あるいは「nganbira」が英語化されたものであるとしている。この報告では、アインズリー山 (en)とブラックマウンテン (en)の間にある氾濫源のサリバンス川についても言及している^[7]。

歴史

詳細は「en:History of Canberra」を参照

ヨーロッパ人が移住する前の、キャンベラを含むオーストラリア首都特別地域(以下、ACT)は、先住民が季節に応じて、居住していたことが分かっている。文化人類学者のノーマン・ティンデル(en)は、キャンベラを含む一帯は、ングナワル人 (en)が居住していたと考えている。また、一方で、ンガリゴ人 (en)がACTの南に、ワンダンディアン人が東に、加えて、ガンダンガラ人 ()がACTの北に、ウイラジュリ人 (en)が北西に居住していた。この地域で発掘された遺跡から分かることは、少なくとも、21,000年前からこの地域に入々が住んでいたと考えられており^[8]、当時の人々の遺跡では、ロック・シュルター、岩に描かれた壁画、埋葬場、キャンプ、石切り場が発見されており、石器の使用も確認されている^[9]。



1860年代に建設されたブルンデルズ・コテージ(en)は、キャンベラに残る、最初期のヨーロッパ系住民の住宅の数少ない建築物である^[10]

キャンベラにヨーロッパ人が探検、居住し始めたのは、1820年代初頭のことである^{[11][12]}。1820年から1824年の間にかけて4つの遠征隊が組織された^{[11][12]}。その結果、1824年に最初の白人居住地が建設された。その場所は、現在のアクトン半島であり、ジョシュア・ジョン・ムーアによって雇われた人々が最初に、居住した^[13]。ジョシュア・ジョン・ムーアは、1826年に、遠征隊の居住地を正式に買収し、その不動産を「Canberry」と名づけた^[14]。

19世紀を通して、キャンベラの成長は非常にゆっくりとしたものであった^[15]。19世紀に建設された建築物で目立つものと言えば、キャンベル・ファミリーと言われる石造りの建築物で、ドウントルーン (en)にある王立軍事大学(en)がまず挙げられる。キャンベラに現存する最古の公共建築物は、ライ下地区にある^[16]聖公会系の洗礼者ヨハネ教会(the church of St John the Baptist)であり、1845年に建設された^{[17][18]}。この境界にある墓地は、キャンベラ地方にある墓地の中でも最古のものである^[19]。

ヨーロッパ人の存在感が増すに連れて、先住民の人口は天然痘あるいは麻疹を原因として、減っていった^[20]。

首都決定

ニューサウスウェールズ州の片田舎に過ぎなかったキャンベラがオーストラリアの首都に決定したのは、独立直前のことである^{[21][22]}。当時のオーストラリアにおいて、同国の二大都市であるニューサウスウェールズ州の州都であるシドニーとビクトリア州の州都であるメルボルンの間で、独立後の連邦の首都の座をめぐる^[23]、長い間、議論がなされていた。しかし、お互いが自らの都市を首都にしたいという意向を持っており、なかなか結論に至らなかった。その結果、最低でもシドニーから100マイル離れている^[21]場所に新しい首都を建設すべきという意見が持ち上がり、新首都建設の間、暫定的に、メルボルンが行政府の首都(capitalと言う言葉を用いることは無かった)とした^[24]。新聞社ザ・ケアンピアン・エイジ(en)の創設者であるジョン・ゲール(en)は、'Dalgety or Canberra: Which?'というパンフレットを配布し、キャンベラが連邦政府の首都になるべきであることを主張した。1909年、政府の調査団を率いたチャールズ・スリヴェナー(en)の調査結果が決定打となり、キャンベラが首都として選定される運びとなった^[25]。ニューサウスウェールズ州政府は、連邦政府に、連邦首都地域という形で土地を割譲した^[21]。1911年5月24日 [26]、キャンベラの都市デザインの国際コンペが実施され、ウォルター・バーリー・グリフィンが提出した計画が採用された^{[27][28]}。1913年、グリフィンは連邦首都のデザインと建設のディレクターに任命され、建設が開始された^[29]。

建設開始

1913年3月12日 [30]、第5代オーストラリア総督トーマス・デンマン_(第3代デンマン男爵)の妻であるデンマン男爵夫人(en)によって正式に「キャンベラ」と命名され、クラジョングの丘でそのセレモニーが実施された^[31]。この丘はそのセレモニー以来、キャピタル・ヒルと呼ばれるようになり、現在は国会議事堂が置かれている^[32]。キャンベラの日 はキャンベラ創立を祝してACTで制定され、3月第2月曜日に実施される^[20]。

このセレモニーの後、官僚の議論がグリフィンの計画を妨げるようになった^[33]。グリフィンと連邦政府の関係は緊張したものとなり、さらにはキャンベラ建設に拠出される資金も1920年にグリフィンが解雇されるまで少ないものであった。グリフィンが担当した仕事はごくわずかであった^{[34][35]}。とほいえ、グリフィンは解雇のときまでに最初の計画を改訂した。



1927年に開場した国会議事堂

1927年5月9日、キャンベラは正式にオーストラリアの首都となり、国会議事堂（現在の旧国会議事堂(en)）が開場した^[36]。スタンレー・ブルース首相^[37]は、その数日前にザ・ロッジ(en)を首相公邸とした^[38]。1930年代の大恐慌時代とそれに続く第二次世界大戦の時代の間、計画都市の拡張は遅々としたものであった^[39]。ローマ・カトリックと聖公会のカテドラルを含めた建設が計画されたが、完成しなかった^[40]。

1920年から1957年の間は、グリフィンの計画を引き継いだのは連邦首都助言委員会(en)^[41]、連邦首都コミッション(en)^[42]、国立首都計画発展委員会(en)の3つの構成主体だった。しかしながら、彼らはあくまで助言機関に過ぎず^[43]、キャンベラ建設の決定は彼らに相談されること無くされたため、時を経るにつれて非効率となってきた^[44]。

終戦直後、キャンベラは「村」に似ていると酷評を受け^[45]^[46]、さらにはずさんに建てられた建築物は醜いものであるという酷評を受けた^[47]。キャンベラは、いくつかのサバープが集まっているものであるものとして嘲笑的に述べられていた^[48]。ロバート・メンジーズ首相^[49]は国家の首都として恥ずかしいものとみなしていた。時間を越えて、メンジーズはその後態度を変え、街の発展を擁護するようになった。メンジーズは、2人の大臣をキャンベラの発展が貧しいものであるとして解雇した。10年以上に及ぶメンジーズの時代で、キャンベラの発展が急速に行われるようになった^[50]^[51]。キャンベラの人口は、1955年から1975年の間、5年ごとに50%の人口成長を成し遂げた^[51]。いくつかの政府機関と公務員は戦後にメルボルンからキャンベラに移動した^[52]。オーストラリア首都地域住宅公社(en)がキャンベラの人口成長に大きな貢献した^[53]。

1957年に国立首都発展委員会(NCDC:en)が設立された後、急速に発展した。NCDCは上述の3つの機関に代わって設立された^[54]。NCDCは40年に及ぶ人工湖バーリー・グリフィン湖の形とデザインをめぐる論争を終わらせ、4年間の建設でこの湖の建設を完成させた^[55]。最終的に、キャンベラ中心街はバーリー・グリフィン湖の上にキャピタル・ヒル（現在、国会議事堂がある）、旧国会議事堂、オーストラリア戦争記念館の3ヶ所を結ぶ、いわゆる「パラメンタリー・トライアングル」を建設するというグリフィンの計画通りとなった^[56]。湖の建設の最初期に、湖岸にいくつかの重要な建築物が建設された^[57]。

オーストラリア国立大学の拡張が実施され^[57]、また、さまざまな彫刻やモニュメントも作られた^[58]。国立図書館は、オーストラリア高等裁判所とオーストラリア国立美術館によって構成されるパラメンタリー・トライアングルの内側に建設された^[16]^[59]。しばしば、北キャンベラと南キャンベラとも呼ばれるキャンベラ中心部のサバープは1950年代により発展した^[60]。さらに、ウォーデン・ヴァレー(en)やベルコンネン(en)と呼ばれている地域もまた、それぞれ1960年代の半ば、あるいは後半に発展していった^[61]。また、キャンベラ周辺に建設された新しいサバープは、オーストラリアの政治家の名前にちなんでいる。例えば、Barton, Deakin, Reid, Braddon, Curtin, Chifley, Parkesは、それぞれ、エドモンド・バートン、アルフレッド・ディーキン、ジョージ・リード、エドワード・ブラッドン(en)、ジョン・カーティン、ベン・チャーフリー(en)、ヘンリー・パークス(en)にちなんでいるものである^[62]。



旧国会議事堂に残るアボリジナルテント大使館

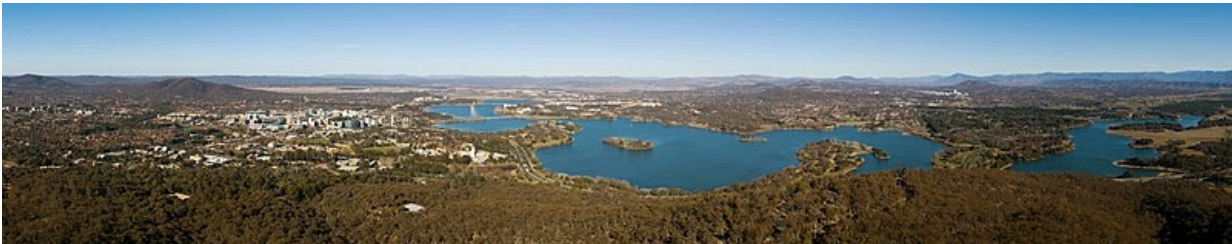
1972年1月27日はアボリジナルテント大使館が国会議事堂の周辺に建設された日付ということで、キャンベラの歴史に記録されている。この大使館は先住民の権利と土地問題に関心を集めるために建てられたもので、テント大使館は1992年まで国会議事堂前を占拠した。1988年5月9日^[63]、オーストラリア建国200周年を記念して新国会議事堂がキャピタル・ヒルに開場した^[16]^[59]。国会機能はこの新国会議事堂に移転された^[63]。

1988年12月、オーストラリア連邦議会で可決されたことによって、ACTに完全な地方自治が与えられた。初めての選挙は1989年3月4日に実施された^[64]。17人の議員がコンスティチューション通り1番地^[65]で1989年3月11日に最初の議会を開いた^[66]。ロンドン・サーキットに建設されたキャンベラ市議会の落成は1994年のことであった^[66]。オーストラリア労働党がキャンベラ市議会の最初の与党団を形成し^[67]、そのキャンベラ市議会を指導したローズマリー・フオレット(en)は、オーストラリアの歴史の中で最初の州政府の女性首長となった^[68]。



アボリナジルテント大使館は放火によって一部が破壊されている

地理



キャンベラとバーリー・グリフィン湖を望むパノラマ

キャンベラの面積は814.2平方キロメートル^[1]。ブリンダベラ山脈(en)のそばにある。また、オーストラリア東海岸からは、150キロメートル内陸に位置する。海拔はおおよそ580メートルであり、標高が最も高いのは、マジューラ山(en)の888メートル^[69]^[70]、それ以外にも、テイラー山、アインズリー山、ブラック・マウンテンがキャンベラの回りにある^[71]。

キャンベラの周辺にある天然林のほとんどがユーカリである。このユーカリが、燃料やそれ以外の目的で利用されてきた。1960年代までに、キャンベラ周辺のユーカリの多くが伐採されたことと水質の悪化が懸念されるようになった。そのため、森林の開発が中止された。キャンベラの森林資源の保護への関心は1915年の複数の「種の保存をめぐる」訴訟で始まった。それ以来、キャンベラ周辺では、植生の地域を増やすことに取り組み、キャンベラの緑は、余暇の場として役割を果たすようになっている^[72]。

キャンベラの市街地は、Ginninderra plain, Molonglo plain, the Limestone plain, and theTuggeranong plain(Isabella's Plain)という4つの平原の上に展開している^[73]。モロングロ川は、モロングロ平原をながれ、キャンベラの中心部でせき止められ、キャンベラの中心部にある人工湖バーリー・グリフィン湖を形成する。その後、キャンベラからACT北西部に流れていき、ニューサウスウェールズ州へ流れていく^[74]。

モロングロ川には、Jerrabomberra CreekやYarralumla Creeksといった小川が、流れ込む^[73]。ジニンデラ湖(en)とタガーアノン湖(en)からは、それぞれ、ジニンデラ川とタガーアノン川が流れ出る^{[75][76][77]}。ごく最近まで、モロングロ川は、大きな洪水を繰り返してきた歴史を持つ。というのも、モロングロ川を流れる水は、バーリー・グリフィン湖を満たすよりも先に、周辺の流域を水没させていた^{[78][79]}。

気候

キャンベラは大陸内陸部に位置しているため、相対的に乾燥している。夏は暑く、冬は寒い^[80]。キャンベラの夏は極端に乾燥し、暑さも厳しい一方で、キャンベラの冬は、空気も冷たく、濃い霧やしばしば、霜も降りる。キャンベラ市街地での降雪はまれではあるが、キャンベラ市街地からは、周辺の山の山頂が冠雪していることをしばしば見ることができる^[80]。過去の最高気温は、1968年2月1日に記録した42.2度^[80]で、一方、過去の最低気温は、1971年6月11日に記録したマイナス10度である^[80]。

キャンベラは、首都とオーストラリアの州都7都市の計8都市の中では、アデレード、ホバートについて、降雨が少ない^[81]。しかしながら、季節に関係なく降水は観測される都市であり、特に晩春は激しい降雨がある^[82]。雷雨を伴う嵐は、10月から4月の間発生するが^[80]、この雷雨は、夏の暑さとや山間部にある影響である。風に関してはそこまで強く吹くことは無く、冷気を伴う風は8月から11月の間に吹く。キャンベラはまた、他の海岸部の都市よりも湿度が低い^[80]。



The location of Canberra within the オーストラリア首都地域の地図。黄色の部分がキャンベラの市街地で、緑の部分がキャンベラ周辺の自然保護地域。キャンベラは、ACTの一角を占めていることがわかる。

キャンベラ国際空港の気候													[隠す]
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温記録 °C (°F)	41.4 (106.5)	42.2 (108)	37.5 (99.5)	32.6 (90.7)	24.5 (76.1)	20.1 (68.2)	19.7 (67.5)	24.0 (75.2)	28.6 (83.5)	32.7 (90.9)	38.9 (102)	39.2 (102.6)	42.2 (108)
平均最高気温 °C (°F)	28.0 (82.4)	27.1 (80.8)	24.5 (76.1)	20.0 (68)	15.6 (60.1)	12.3 (54.1)	11.4 (52.5)	13.0 (55.4)	16.2 (61.2)	19.4 (66.9)	22.7 (72.9)	26.1 (79)	19.7 (67.5)
平均最低気温 °C (°F)	13.2 (55.8)	13.1 (55.6)	10.7 (51.3)	6.7 (44.1)	3.2 (37.8)	1.0 (33.8)	−0.1 (31.8)	1.0 (33.8)	3.3 (37.9)	6.1 (43)	8.8 (47.8)	11.4 (52.5)	6.5 (43.7)
最低気温記録 °C (°F)	1.8 (35.2)	3.0 (37.4)	−1.1 (30)	−3.7 (25.3)	−7.5 (18.5)	−8.5 (16.7)	−10.0 (14)	−8.5 (16.7)	−6.4 (20.5)	−3.3 (26.1)	−1.8 (28.8)	1.1 (34)	−10.0 (14)
降水量 mm (inch)	58.5 (2.303)	56.4 (2.22)	50.7 (1.996)	46.0 (1.811)	44.4 (1.748)	40.4 (1.591)	41.4 (1.63)	46.2 (1.819)	52.0 (2.047)	62.4 (2.457)	64.4 (2.535)	53.8 (2.118)	616.4 (24.268)
平均降水日数	7.3	6.7	6.9	7.3	8.4	9.8	10.5	11.1	10.2	10.4	9.8	7.8	106.2
平均月間日照時間	294.5	254.3	251.1	219	186	156	179.8	217	231	266.6	267	291.4	2,813.7
出典: ^{[83]}													

都市構造

詳細は「en:Parliamentary Triangle, Canberra[ⓘ]およびen:Suburbs of Canberra[ⓘ]」を参照

キャンベラは、計画都市として設計され、市の中心街の設計は、ウォルター・バーリー・グリフィンが行った^[84]。バーリー・グリフィン湖に近い道路ほど、碁盤目状ではなく、「車輪とスポークの」形状を取っている^[85]。グリフィンは、キャンベラ建築計画において、ふんだんに幾何学上のパターンを採用しており、その中には、六角形や八角形の形状も含まれている^[85]。しかしながら、キャンベラも郊外に行くと、街作りが遅かったことから、幾何学上の街づくりもしていない^[86]。

バーリー・グリフィン湖は、キャンベラの地形状のランドマークとして、キャンベラの街を構成する要素に関連付けるために建設された^{[87][88]}。バーリー・グリフィン湖は、キャンベラ中心部を東西に横たわり、キャンベラ・セントラルは、この湖によって、南北に分けられている。キャピタル・ヒルからコモンウェルス通りを北上して、湖を渡るとそばには、コモンウェルス公園があり、キャンベラの中心地へとつながる。そのキャンベラの中心地には、ロンドン・サーキットと呼ばれる六角形の環状道路があり、ロンドン・サーキットから南東にコンスティチューション通りを行くと、北東方向に伸びる大通りがANZACパレードである。ANZACパレードの突き当りには、オーストラリア戦争記念館がある^[46]。この設計は、アインズリー山の展望台から、キャピタル・ヒルの方向を臨むと国会議事堂・ANZACパレード・オーストラリア戦争記念館が一直線で展望することができる設計となっている。

コンスティチューション通りをさらにまっすぐ南東方向に進むとキングス通りとの交点に、豪米戦争記念碑(en)がある。南西方向にキングス通りを進み、バーリー・グリフィン湖を渡るとキャピタル・ヒルに戻ることができる。このコモンウェルス通り、コンスティチューション通り、キングス通りの3つの街路で囲まれた部分をパーラメンタリー・トライアングル(en)と呼び、グリフィンの計画の中心をなすものである^{[88][89]}。

キャンベラから南西方向に伸びる軸の終点が、キャンベラから52キロメートル離れた所にあり、ACTで標高が最も高いビンペリ・ピーク(en)^{[88][71]}である。

さらに、グリフィン、エイズリー山、ブラック・マウンテン、レッド・ヒルに精神的な価値を置いていた。そのため、彼は、それぞれの山を花で飾ることを計画した。そして、彼の計画は、それぞれの頂を1つの花で彩ることにした。その花は、それぞれが精神的価値を代表した^[90]。第一次世界大戦の間、建設と計画は遅々として進まず、結果的に、ビリー・ヒューズ首相によって、グリフィンが解雇されたことで、計画が実現することは無かった^{[34][35][91]}。

キャンベラの街は、7つの地区に分けられる。7つの地区とは、キャンベラ・セントラル、ウォーデン・ヴァレー、ベルコネン、ウェストン・クリーク、タガラノン、ガンガーリン、モロングロ・ヴァレーである。これらの7つの地区の中心に、役場が設けられており、複数のサバープを束ねているピラミッド型の構造をとる^[92]。

- キャンベラ・セントラル(en)--25のサバープで構成される地区。キャンベラの中心であり、1920年代から1930年代に、居住が開始された。1960年代に区域が拡張されている^[93]。
- ウォーデン・ヴァレー(en)--1964年より、供用された地区^[61]で、12のサバープで構成される地区。
- ベルコネン(en)--1966年より供用された地区^[61]で、25のサバープで構成される地区ではあるが、1つのサバープは、まだ、開発されていない。
- ウェストン・クリーク(en)--1969年より供用された地区で、8つのサバープで構成される^[94]。
- タガラノン(en)--1974年より供用された地区^[95]で、18のサバープから構成される。
- ガンガーリン(en)--1990年代より供用された地区で、18のサバープから構成されているが、6つのサバープがまだ、未開発である。
- モロングロ・ヴァレー(en)--2010年に開発が開始された。13のサバープの開発が予定されている。



豪米戦争記念碑(en)

キャンベラ・セントラル地区は、基本的に、ウォルター・バーリー・グリフィンの計画に基づいている^{[88][89]}。1967年、NCDCは、「Y計画」という計画を決定した^[96]。「Y計画」という計画は、タガラ タガラノンが「Y」の文字の縦棒の一番下の部分、ベルコネンとガンガーリンがそれぞれ、「Y」の文字の斜め棒の先端とすることで、それぞれの地区とキャンベラ中心部を高速道路で結ぶという計画で、Yの文字に似ている所から来ている^[96]。

前述のように、多くのキャンベラのサバープは、オーストラリアの首相や有名なオーストラリア人、オーストラリアへ移住してきた人々、あるいは、アボリジニにちなんで名づけられている。キャンベラの街路名は、特定の主題にしたがっている。例えば、「Duffy」の街の通りは、オーストラリアのダムや貯水池、「Dunlop」の街の通りは、オーストラリアの発明や発明家・芸術家、「Page」の街の通りは、生物学者や博物学者の名前にちなんでいる。

大使館の多くは、ヤラルムラ(en)、ディーキン(en)、オマリー(en)といったサバープにある^[97]。キャンベラの工業地域は、フィッシュウイック(en)、ミツチエル(en)、ヒューム(en)の各地区にある^[98]。

行政

キャンベラの外は、ACTでは、村の規模よりも大きい住居地区は無い。 キャンベラはオーストラリア首都特別地域(ACT)に内包され、地方政治と連邦国政は共にオーストラリア首都特別地域(ACT)とジャービス湾特別地域(JBT)を一体的に扱っている。

地方自治

地方自治としてはキャンベラの地方政府とオーストラリア首都特別地域(ACT)およびジャービス湾特別地域(JBT)の地方政府は統合されている。地方議会でありキャンベラ市議会やACT議会およびJBT議会に相当するオーストラリア首都特別地域立法議会(ACT立法議会)と、首長でありキャンベラ市長やACT知事およびJBT知事に相当するオーストラリア首都特別地域首相(ACT首相)が設置されている。オーストラリア首都特別地域立法議会^[99]は17人から構成され、それぞれ、人口の比率に応じて割り振られた3つの選挙区から選出されている^[67]。3つの選挙区とは、モロングロ選挙区、ギニンデラ選挙区、プリンダベラ選挙区と名づけられており、それぞれの議席数は、7、5、5である^[100]。

キャンベラを主管するACT首相は、ACT立法議会のメンバー(the Members of the Legislative Assembly: MLA)から選出され、首相が同一会派のメンバーから大臣を任命し、ACTの内閣が組閣される^[99]。2004年の選挙では、オーストラリア自由党が17議席中9議席を獲得することで第一党となり、ジョン・スタンホープ(en)がACT首相となったが、2008年の選挙で、自由党は、少数派に転落し、オーストラリア緑の党との連立政権を強いられた^{[67][101]}。

国政

キャンベラは他州内の都市と同様にオーストラリア首都特別地域(ACT)およびジャービス湾特別地域(JBT)の一部としてオーストラリア連邦議会の議席選挙区の区割りが設定されている。 オーストラリア連邦議会の議席が上院はACTおよびJBT全体で2議席、下院は2つの選挙区がACTおよびJBTに割り当てられており、選挙区分割によってキャンベラ選挙区が設けられた。 ACTの人口のほとんどがキャンベラに居住しているが、政治的傾向は、キャンベラ・ACTともに似通っている。ACTに下院の議席が割り当てられたのは1949年のことである^{[102][103]}。ACT選出の議員は、ACTに直接影響を与える案件にのみ、投票することができる^[103]。 1974年、ACTには、上院2議席が割り当てられた^[102]。1996年には、第3の議席が割り当てられたが、



キャンベラ中心街とバーリー・グリフィン湖。この地図で、グリフィンが計画した「パラメンタリー・トライアングル(議会の三角形)」を確認することができる。



タガーアノン溪谷



キャンベラの衛星写真

これは、地域の人口バランスの変更のために、1998年に廃止された^[20]。キャンベラ選出の議員は、ともに、常にある程度のリードをもって、労働党が議員を獲得している^{[104][105]}。少なくとも、1990年以来、少なくとも、7%のリードを労働党は自由党に対して保ち続けている^[67]。 オーストラリア上院の2議席は、労働党と自由党がそれぞれ1議席を分け合っている形となっている^[106]。

地方自治権を獲得したとはいえ、オーストラリア連邦政府は、ACT政府に大きな影響力を持ち続けている。行政の分野では、国家首都局(en:NCA)が、キャンベラの都市計画を首都としての重要性あるいはグリフィンの計画を遂行させるために、責任を持っているという考えから、頻繁に行動をとっている^[107]。グリフィンの計画には、パーラメンタリー・トライアングル、バーリー・グリフィン湖、道路計画、連邦政府の所有地、あるいは未開発の山や尾根といったものも含まれる^{[107][108][109]}。連邦政府は、1988年に制定されたオーストラリア州地域地方自治法(en)を整備したことで、ACT議会をある程度、コントロールしている^[110]。連邦政府の行動は、ACT議会の立法権を定義している^[111]。

オーストラリア連邦警察(en：AFP)は、州警察と似たような警察力をACT管内で行使しているが、警察権の行使は、ACT政府との契約に基づく^[112]。そのため、AFPは、オーストラリア州地域警察として、地域の保安の役割を担っている (Australian Capital Territory Police).^[113]。

犯罪ないしはその他の被告人は、 オーストラリア州地域地方裁判所(en)あるいは、重大犯罪は、 オーストラリア最高裁判所(en)において、裁判が行われる^{[114][115]}。被告人の拘留は、ベルコンネン・リマンド・センター(en)で行われるが、有罪が確定した場合には、ニューサウスウェルズ州内の刑務所に収監される^[116]。2008年9月、ジョン・スタンホープACT首相の手によって、新しい刑務所であるアレクサンダー・マッコニー・センター(en)が開所した。建設費用は、1.3億オーストラリアドルである^[117]。また、民事裁判や家庭裁判は、Small Claims Tribunalや家庭裁判所で審理される^{[118][119]}。

経済

2010年のキャンベラの失業率は、3.9パーセントで、オーストラリア全体の失業率が5.3パーセントであったことから^[120]、他の地域よりも相対的に低い^[121]。失業率の低さと公共部門・商業部門の雇用に支えられ、キャンベラは、オーストラリアの中でも、1人当たりの所得が高い^[122]。2009年11月の統計では、オーストラリア全体の平均1人当たり所得が週給1223.30オーストラリアドルであったのに対し、キャンベラのそれは、1392オーストラリアドルに達する^[123]。

2009年の経済統計に基づくと、キャンベラの中位家計所得は511,820オーストラリアドルである。この数字は、キャンベラと10万人以上のオーストラリアの都市の家計所得と比較した場合、シドニーのみがキャンベラよりも豊かである。2005年以降は、メルボルンやパースの金額を上回っている^{[124][125]}。労働分配という視点で、週給をものさしとした場合、キャンベラの住民の平均週給は、他の州・準州と比較しても高い^[126]。2009年3月の統計では、キャンベラの住民の平均週給は420ドルで^[127]、オーストラリア全体の中で、第3位である^[128]。

キャンベラの主要産業は、官公庁セクターと防衛産業である。2008-09年度の地域総生産は、これらの産業は31%に達し、キャンベラの労働力の40%以上の雇用を生み出している^{[123][129]}。オーストラリア国防軍のいくつかの施設は、キャンベラ近郊にある。その中でも著名なものは、オーストラリア国防軍総司令部とHMAS Harmanと呼ばれるオーストラリア海軍の施設である^[130]。キャンベラ国際空港の隣接地にはかつて、オーストラリア空軍の施設があつたが、その施設は現在、空港のオペレーターに売却されている^[131]。しかしながら、旧オーストラリア空軍基地は、現在もVIPのフライトとして使用されている^{[132][133]}。

政府機関の顧客の需要に応えるために、ソフトウェアの会社のいくつかの会社がキャンベラに本社を置いている。代表的な会社は、タワー・ソフトウェア(en)とルールバースト(en)の二社である^{[134][135]}。官民合弁のコンソーシアムは現在、キャンベラをアジア太平洋地域のデータ・ハブセンターとすることを狙い、10億ドルの出資計画を策定している^[136]。

人口統計

2006年時点で、キャンベラの人口は、323,056人である^[137]。2006年の人口統計では、キャンベラの人口の1.2%が先住民系、21.7%が海外系である^[138]。キャンベラにおける最大の人口グループは、イギリスあるいはニュージーランドを出身とする英語話者のグループである^[138]。

キャンベラにおける移民で、重要な意義を持つ民族集団は、中国、インド、ベトナム出身者である。直近の移民の多くは、東アジア・東南アジアを出自としている^[138]。キャンベラで話される言語は、当然のことながら英語（81.1%）であるが、それ以外の第二言語も話されている。その言語とは、マンダリン(中国語)、イタリア語、ヴェトナム語、カタルーニャ語、ギリシャ語である。これら5つの言語は、合計で人口の4.8%ではなされている^[138]。

キャンベラの住民は、相対的に年齢が若い。平均年齢は34歳であり、人口の9.8%が65歳以上である^[137]。また、人口流動がオーストラリアで大きい都市である。1996年から2001年の間にかけて、キャンベラの人口の61.9%がキャンベラから転出あるいは転入している。この流動性は、オーストラリアの州都8都市の中で2番目に高い^[139]。2004年の時点で、ACT内15歳から64歳の年齢層の30%が学士号を取得している。この数字は、オーストラリア全体の19%という数字と比較しても高い^[140]。

約60%のキャンベラの住民が自らをキリスト教徒と考えており、カトリックあるいは聖公会である。6%がキリスト教以外の宗教を信仰し、23%は無宗教である。

2002年時点でのキャンベラで発生した犯罪の多くが、住居不法侵入と自動車の盗難で、それぞれ、10万人あたりの発生件数は、1961件と630件である。殺人に関連する犯罪は、10万人当たり、1.5件であり、オーストラリア全体の4.9件と比較しても小さい。暴行事件や性的暴行事件もまた、オーストラリア平均よりも低い数字である^[137]。

教育



オーストラリア首都特別地域議会議会とEthosの像 (Tom Bass, 1961)



多くのキャンベラの住民が官公庁で勤めている。写真は、オーストラリア財務省。

キャンベラには、2つの総合大学がある。アクトンにあるオーストラリア国立大学(ANU)とブルースにあるキャンベラ大学(UC)である。それぞれ、10,500人と8,000人の学生を抱える^{[141][142]}。1946年に設立された^[143]オーストラリア国立大学は、常に、研究活動に焦点をおき、オーストラリア最高の順位の大学として、The Times Higher Education Supplementのランキングにランクされている^{[142][144]}。また、キャンベラには、2つの宗教系大学がある。1つがキャンベラ北部のサバーブ・ワトソンにあるSignadouでオーストラリアカトリック大学の校舎であり^[145]、チャールズ・スタート大学のキャンパスとして、St Mark's Theological Collegeがある^[146]。キャンベラ北部のサバーブ・キャンベルには、オーストラリア国防大学(ADFA)と王立軍事大学(en)がある^{[147][148]}。ADFAでは、軍事大学及び軍事大学院を保有し、ニューサウスウェールズ州立大学のキャンパスでもある^{[149][150]}。ドウントルーンには、オーストラリア陸軍の士官学校部門もある^[151]。キャンベラ工科大学の複数のキャンパスでは、大学レベル職業訓練が施されている^[152]。

2004年2月の段階で、キャンベラには140の学校があった。96校は公立で44校は私立校である。2006年中に、ACT政府は、39校を効率化のために閉鎖すると発表した^[153]。その結果、2006年から2008年にかけて、複数の学校が閉鎖、統合された。このACT政府の学校政策に関しては、重要な反対が起きた。多くのサバーブが小学校を持つように設計されている。学校の多くは、レクリエーションやスポーツ活動が簡単に利用できるような公共空間の近くに設けられている^{[154][155][156][157]}。

文化

芸術・娯楽



2001年に設立されたオーストラリア国立博物館

キャンベラには、オーストラリア戦争記念館、オーストラリア国立美術館、オーストラリア国立肖像美術館(en)、オーストラリア国立図書館^[158]、オーストラリア国立アーカイブ(en)^[159]、オーストラリア国立映像音響アーカイブ^[160]、オーストラリア科学院(en)^[161]、オーストラリア国立博物館のように、多くの国立のモニュメントや施設がある^[158]。キャンベラにある連邦政府の施設である国会議事堂やオーストラリア高等裁判所、王立オーストラリア造幣局は、一般公開されている^{[162][163][164]}。バーリー・グリフィン湖の湖畔には、キャプテン・ジェームズ・クック・メモリアル(en)とナショナル・キャリロン(en)がある^[158]。他のキャンベラの主要施設には、ブラック・マウンテン・タワー(en)、オーストラリア王立ボタニック・ガーデン(en)、国立動物園水族館(en)、国立恐竜博物館(en)、国立科学技術センターがある^{[158][165]}。

キャンベラ市街地にあるキャンベラ博物館美術館(en)は、キャンベラ地域の歴史と芸術を収納する役割を果たしている^[166]。複数の歴史的な住居が一般公開されている。タガーアノン(en)にあるLanyon and Tuggeranong Homesteads^{[167][168]}やシモンストン(en)にあるMugga-Mugga^[169]、パークス(en)にあるブランデルズ・コテージ

は、キャンベラ入植初期の白人の生活スタイルを展示している^[10]。レッド・ヒル(en)にあるCalthorpes' Houseは小さいながらも、1920年代のキャンベラの住宅をよく保存している^[170]。

キャンベラは、多くの音楽や演劇が公演されている場所でもある。例えば、キャンベラ劇場(en)では、多くの主要なコンサートが開催されている。オーストラリア国立大学音楽学校(en)内にあるLlewellyn Hallも世界級のコンサートが開催される^[171]。The Street Theatreでは、主流の音楽以外を提供している場所である^[171]。アルバート・ホール(en)は、キャンベラで最初に開場した劇場であり、1928年に開場した。ここでは、Canberra Repertory Societyのような劇団がオリジナルの演劇を行う場所である^[172]。

キャンベラ大学で開催されるストーンフェスト(en)は、2日間にまたがって開催される音楽祭である^[173]。また、特に、ディクソン、キングストン、キャンベラの中心街には、たくさんのバーやナイトクラブがあり、この地域でも多くのエンターテインメントが提供されている^[174]。多くの町の中心部には、劇場、映画館、図書館といった施設が整備されている^[175]。ナショナル・フォーク・フェスティバル(en)、ロイヤル・キャンベラ・ショー(en)、サマーナッツ(en)といった人気のあるイベントは2月に実施され、「Celebrate Canberra festival」は、3月、キャンベラの日を祝うために、10日以上にわたって開催される^[173]。

キャンベラは、日本の奈良市と中国の北京市と姉妹都市関係、東ティモールのディリと中国の杭州市とは友好関係を締結している^[176]。都市同士の結びつきが、相互に、幅広い分野で、文化交流を行っている。キャンベラとならの姉妹都市関係を祝して、「Canberra Nara Candle Festival」が毎春開催される^[177]。Tこの祭りは、バーリー・グリフィン湖畔のキャンベラ・奈良公園で開催される^{[178][179]}。



キャンベラ・奈良公園

スポーツ

キャンベラには、複数のスポーツリーグのチームがある。キャンベラでもっとも有名なスポーツチームは、ラグビーリーグのキャンベラ・ライダース(en)とラグビユニオンのブランビーズ(en)である。この両チームは、それぞれのリーグで優勝経験があり^{[180][181]}、ともに、キャンベラ・スタジアムを本拠地としている。キャンベラ・スタジアムは、キャンベラ最大の競技場であり^[182]、2000年のシドニーオリンピックでのサッカー競技、2003年のラグビー・ワールドカップが開催された^{[183][184]}。キャンベラにはまた、キャンベラ・キャピタルス(en)というリーグ戦で11回中7回優勝し、最も成功している女子バスケットボールチームがある^[185]。また、女子サッカークラブのキャンベラ・ユナイテッドFC(en)が、キャンベラを本拠地としており、2011-12シーズンを優勝した^[186]。



キャンベラ・スタジアムのラグビー・リーグの試合

キャンベラには、またネットボール、ホッケー、アイスホッケー、クリケット、野球の国内リーグのチームがある。マヌカ・オーヴァル(en)は、クリケットとオージーフットボールの試合を行うことができる、キャンベラのもう1つの競技場である。ここでは、メルボルンを本拠地とするオーストラリアン・フットボール・リーグのチームであるカンガルーズの愛称を持つノースメルボルンFC(en)が2006年7月に試合を主催したことがある競技場である^[187]。カンガルーズがキャンベラから本拠地をクイーンズランド州のカララ(en)に移動すると、メルボルンFC(en)と同じくメルボルンを本拠とするウェスタン・ブルドッグス(en)が、シドニー・スワズ(en)と試合をする際には、マヌカ・オーヴァルで開催するようになった^[188]。キャンベラはまた、ジュニアのオージーフットボールの国際大会であるパラシ国際オーストラリアン・フットボール・ユース・トーナメント(en)の開催地でもある^[189]。さらに、オーストラリアの歴史的なクリケットの試合であるプライム・ミニスターズ・イレブン(en)も毎年、マヌカ・オーヴァルで開催される^[190]。

野球はオーストラリアではマイナーなスポーツだが、オーストラリア代表チームとして初めてアジアシリーズを2013年に制覇した、キャンベラ・キャバल्लीがある。

毎年、キャンベラで開催されるほかの重要なスポーツイベントは、キャンベラ・マラソン(en)、キャンベラ・ハーフマラソン、キャンベラ・トライアスロンである。かつて同地で開催されていたものとしては、2001年から2006年まで毎年1月にテニスのWTAツアー大会の一つであったキャンベラ国際が、グランドスラム大会の一つである全豪オープン開催前週に前哨大会の一つとして実施されていた^[191]。



クリケットとオージーフットボールが開催されるマスカ・オーヴアル

オーストラリア国立スポーツ研究所（AIS）は、ブルース(en)にある^[192]。AISではジュニア層のエリートをコーチする施設である。1981年以来、AISは、さまざまな成功を国際的にも国内的にも、エリートのアスリートを育成することで収めてきた^[192]。2000年のシドニーオリンピックのオーストラリア選手団とそのメダリストの多くは、AISを卒業している^[193]。キャンベラには、複数のスポーツ競技場、ゴルフコース、スケート場、テニスコート、プールがあるが、これらは、一般に公開している。キャンベラ一帯に整備されている自転車道は、サイクリストがレクリエーションやスポーツ活動できるように作られた道路である。キャンベラの周辺にある国立公園には、多くの遊歩道や乗馬用、マウンテンバイク用の道路を整備している。セイリング、ボートやドラゴンボート、水上スキーといった水上スポーツは、キャンベラの湖で行われている^{[194][195]}。キャンベラでは毎年、ラリー競技も開催されており、現在では、ドラッグレースの施設の建設を計画中である^{[196][197]}。

インフラストラクチャー

医療

キャンベラには、2つの大きな公共病院がある。1つが、およそ600床を持つキャンベラ病院(en)で、もう1つが、174床を持つカルヴァリー公立病院(en)である。両機関とも、教育機関も兼ねている^{[198][199][200][201]}。キャンベラ最大の私立病院は、ディーキンにあるカルヴァリー・ジョン・ジェームズ病院 (Calvary John James Hospital) である^{[202][203]}。ブルースにあるカルヴァリー私立病院 (Calvary Private Hospital) とガーランにあるヘルスコープス首都私立病院 (Healthscope's National Capital Private Hospital) もまた、医療分野での教育機関である^{[198][200]}。



キャンベラ病院

王立キャンベラ病院は、かつて、バーレー・グリフィン湖畔のアクトン半島にあったが、1991年に閉鎖、1997年に廃止された。廃止の際には、爆破され(en)、跡地には、オーストラリア王立美術館が建設された^{[57][89][158][204]}。市内には老人介護施設が10箇所ある。キャンベラの病院は、ニューサウスウェールズ州南部の救急医療を請け負っており^[205]、オーストラリア首都地域救急サービス(en)は、オーストラリア首都地域緊急サービス局(en)に属する4つの機関の1つである^[206]。新生児救急輸送サービス(en:NETS)は、ACTのみならず、ニューサウスウェールズ州南部の新生児の救急サービスを請け負っている^[207]

輸送

キャンベラにおいては、自動車 が最も支配的な交通手段である^[208]。キャンベラは幹線道路が複数の住宅地区及び未開発地域や森林を貫いている^[209]。結果として、キャンベラの人口密度は低いものとなっており、このことが意味することは、仮に将来、キャンベラの未開発地域が開発に供与されることが必要となったとしても、他のオーストラリアの主要都市とは異なり、道路建設の際には、必ずしもトンネルを建設し、既に住宅となっている地域の収容をする必要がないということを意味する^[210]



キャンベラ国際空港のターミナル

キャンベラの7つの地区は一般的に、2車線の入場が制限される「公園道路」で接続しており^{[208][211]}、制限速度は、時速100キロメートルに設定されている^{[212][213]}。一例として、キャンベラ中心地区とトゥゲラノング(en)をむすぶトゥゲラノング・パークウェイ(en)は、ウェストン・クリークの迂回路になっている^[214]。多くの地区では、不連続の住宅地区のサバープは、幹線道路によって境界が設けられている。これは、サバープに居住する人々以外の車が近道目的で、サバープに侵入するのを防ぐ目的がある^[215]。



キャンベラ駅

オーストラリアの公共バスサービスであるACTION(en)は、キャンベラ全体の公共輸送を受け持つ^[216]。Deane's Transit Groupは、キャンベラとキャンベラ近郊のニューサウスウェールズ州南部のムルムベイトマン(en)とヤス(en)の間には、「Transborder Express」のブランドで^[217]、ケアンピヤン(en)の間には、「Deane's Buslines」のブランドで^[218]、バスを運行している。2006年の人口統計では、通勤者の7.7%がバスを利用している。一方で、7.4%の通勤者が徒歩か自転車を利用している^[137]。キャンベラには2つのタクシー会社があり、2007年に、Cabxpressが登場するまでは、Aerial Capital Groupがキャンベラのタクシー輸送を独占していた^[219]。

シドニーとキャンベラの州間鉄道輸送をカントリーリンクが担っている^[220]。キャンベラ駅(en)は、サウス・キャンベラ地区のサバープであるキングストン(en)にある^[221]。1920年から1922年の間、鉄道路線は、モロングロ川を渡り、さらに、北進しキャンベラの中心街まで延びていたが、モロングロ川の洪水のために、キャンベラ駅とキャンベラ市街をつなぐ鉄道路線は閉鎖され、再建されなかった。同時に、ヤスへの延伸計画も放棄された。1067ミリの狭軌で、Yarralumla brickworksと国会議事堂の間にも軌道は建設され、市街地まで延伸したものの、こちらも、1927年には廃止となった^[222]。キャンベラからメルボルンに鉄道で出るには、バスで1時間離れたヤスまで移動し、そこで、シドニーとメルボルンを結ぶカンタリーリンクに乗り換える必要がある^{[223][224]}。

TGVのような高速鉄道で、シドニー、キャンベラ、メルボルンを高速鉄道で結ぶ計画はあるが、2012年現在では、まだ、建設されていない^[225]。背景には、高速鉄道を建設したとしても、経済的に採算が取れる提案ができないためである^{[226][227]}。キャンベラ市内に鉄道を建設する計画もあるが、こちらも達成されていない^[44]。同様に、ジャービス・ベイと鉄道で結ぶ計画もあるが、こちらも未建設のままである^[228]。

自動車での都市間移動では、シドニーとは連邦高速道路23号線で連結しており、シドニー・キャンベラ間の所要時間は約3時間である^[229]。また、連邦高速道路25号線を介して、8時間でメルボルンに到達することができる^[229]。また、オーストラリアのスキー・シーズンの中心であるスノーウィ山脈(en)やコジオスコ国立公園(en)には、23号線で2時間^[224]、ニューサウスウェールズ州南部の保養地であるバイトマンズ・ベイ(en)もキングス・ハイウ

エイ(en)を経由して、約2時間である^[224]。

キャンベラ国際空港は、キングスフォード・スミス国際空港(シドニー)、メルボルン、ブリズベン、アデレード、パースとの直行便がある^[230]。また、ニューサウスウェールズ州のアルバリー(en)とニューカッスルとの便も用意されている。しかし、国際便の定期便は、就航していない。2003年までは、軍民共用であったが、現在は、オーストラリア空軍がキャンベラ国際空港を利用していないため、完全民間空港である^[231]。

その他の公共インフラ

ACT政府保有のACTEW公社(en)がキャンベラの上下水道を担っている^{[232][233]}。ActewAGL(en)は、ACTEWとオーストラリアン・ガズ・ライト・カンパニー(en)の共同出資会社であるActewAGLがキャンベラに水道水、天然ガス、電気、そして、TransACT(en)の子会社の電線を経由して電話サービスを提供している^[234]。

キャンベラは、コリン(Corin)、ベンドラ(Bendora)、コッター川(en)にあるコッターダムとケアンピヤン川にあるGoogong Damの計4つの貯水場を持つ。Googong Damは、ニューサウスウェールズ州にあるが、管理は、ACT政府によって行われている^[235]。ACTEWは、フィッシュウィックとモロングロ川の下流域の2ヶ所に下水処理場を持っている^{[236][237]}

キャンベラに供給される電力は、国家電力網を通じて、ホウルト(en)やフィッシュウィックから供給される^[238]。再生可能エネルギーはキャンベラに水資源を供給するストロムロ山にある水力発電で発電され、バルコンネンとムッガ・レーンには、メタンによる発電所が設置されている^{[239][240]}。キャンベラに最初の発電所が建設されたのは、モロングロ川近くで1913年のことである^[241]。ACTは、オーストラリアの中でも、もっとも、コンピュータの使用率とインターネットの利用率が高い^[242]。

対外関係

キャンベラは、2つの姉妹都市と2つの提携都市を持つ。

姉妹都市

- 奈良市 (日本国)
- 北京市 (中華人民共和国)

提携都市

- ウェリントン (ニュージーランド国)
- ブラジリア (ブラジル連邦共和国)

脚注

- ↑ *^{***a***}* *^{***b***}* "Planning Data Statistics (https://web.archive.org/web/20080802163103/http://www.actpla.act.gov.au/tools_resources/planning_data)". ACT Planning & Land Authority (2009年7月21日). 2008年8月2日時点のオリジナル (http://www.actpla.act.gov.au/tools_resources/planning_data)よりアーカイブ。2010年5月13日閲覧。
- ↑ "3218.0 - Regional Population Growth, Australia, 2012 (http://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Products/3218.0~2012~Main+Features~Main+Features?OpenDocument)". オーストラリア統計局 (2013年8月20日). 2014年1月24日閲覧。
- ↑ *Macquarie ABC Dictionary*. The Macquarie Library. (2003). p. 144. ISBN 1-876429-37-2.
- ↑ The Sydney Morning Herald. 7 September 1954 (pg 2)
- ↑ Wendy Lewis, Simon Balderstone and John Bowan (2006). *Events That Shaped Australia*. New Holland. p. 106. ISBN 978-1-74110-492-9.
- ↑ "Place Names" (http://nla.gov.au/nla.news-article55185386). *The Australian Women's Weekly (1932–1982)* (1932–1982: National Library of Australia): p. 61. (1964年5月13日) 2011年2月22日閲覧。
- ↑ Hull, Crispin. "Canberra – Australia’s National Capital (http://www.crispinhull.com.au/book-on-canberra/chapter-2-european-settlement-and-the-naming-of-canberra)". Crispin Hull. 2010年6月7日閲覧。
- ↑ Flood, J. M.; David, B.; Magee, J.; English, B. (1987). "Birrigai: a Pleistocene site in the south eastern highlands", *Archaeology in Oceania* **22**:9–22
- ↑ Gillespie, Lyall (1984). *Aborigines of the Canberra Region*. Canberra: Wizard (Lyll Gillespie). pp. 1–25. ISBN 0-9590255-0-2.
- ↑ *^{***a***}* *^{***b***}* "Blundells Cottage (http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=234:blundells-cottage&catid=57:ql-menu-visiting&Itemid=197)". National Capital Authority. 2010年5月13日閲覧。
- ↑ *^{***a***}* *^{***b***}* Fitzgerald, p. 5.
- ↑ *^{***a***}* *^{***b***}* Gillespie, pp. 3–8.



ブラック・マウンテン・タワーもまた、キャンベラの観光客をひきつける、キャンベラのランドマークである。

13. ^ Gillespie, p. 9.
_
14. ^ Fitzgerald, p. 12.
_
15. ^ Gibbney, p. 48.
_
16. ^ ^{a b c} Sparke, p. 116.
_ _ _
17. ^ Gillespie, p. 78.
_
18. ^ Fitzgerald, p. 17.
_
19. ^ Applebee, P&Weatherill, David (2007年). "Church of St John the Baptist Cemetery (<http://www.australiancemeteries.com/act/stjohns.htm>)". The Heraldry & Genealogy Society of Canberra. 2010年5月7日閱覽。

20. ^ ^{a b c} "Canberra – Australia's capital city (<http://www.cultureandrecreation.gov.au/articles/canberra/>)". Department of the Environment, Water, Heritage and the Arts (2010年2月4日). 2010年4月23日閱覽。

21. ^ ^{a b c} Fitzgerald, p. 92.
_ _ _
22. ^ Gillespie, pp. 220–230.
_
23. ^ Davison, Hirst and Macintyre, pp. 464–465, 662–663.
_
24. ^ Wigmore, p. 24.
_
25. ^ Fitzgerald, p. 93.
_
26. ^ Fitzgerald, p. 100.
_
27. ^ Gillespie, p. 178.
_
28. ^ Wigmore, pp. 160–166.
_
29. ^ Wigmore, p. 63.
_
30. ^ Gillespie, p. 303.
_
31. ^ Fitzgerald, p. 103.
_
32. ^ Fitzgerald, p. 105.
_
33. ^ Wigmore, pp. 70–71.
_
34. ^ ^{a b} *Lake Burley Griffin, Canberra : Policy Plan*, p. 4.
_ _
35. ^ ^{a b} Wigmore, pp. 69–79.
_ _
36. ^ Fitzgerald, p. 130.
_
37. ^ Wigmore, p. 101.
_
38. ^ "Ethel Bruce – Stanley Melbourne Bruce – Australia's PMs – Australia's Prime Ministers (<http://primeministers.naa.gov.au/primeministers/bruce/spouse.aspx>)". National Archives of Australia. 2010年4月23日閱覽。

39. ^ Wigmore, pp. 125–128.
_
40. ^ Gibbney, pp. 116–126.
_
41. ^ Fitzgerald, p. 115.
_
42. ^ Fitzgerald, p. 128.
_
43. ^ Wigmore, p. 113.
_
44. ^ ^{a b} MacDonald, B.T. (May 1967). *Railways in the Australian Capital Territory*. Australian Railway Historical Society Bulletin. pp. 106–116.
_ _
45. ^ Sparke, p. 6.
_
46. ^ ^{a b} Sparke, pp. 1–3.
_ _
47. ^ Sparke, pp. 7–9.
_
48. ^ Minty, p. 804.
_
49. ^ Sparke, p. 30.
_
50. ^ Sparke, pp. 31–32.
_
51. ^ ^{a b} Sparke, pp. 103–104, 145, 188, 323.
_ _
52. ^ Wigmore, pp. 111–120.
_
53. ^ Gibbney, pp. 230–242.
_
54. ^ Andrews, p. 90.
_


55. ^ Sparke, pp. 130–140.
56. ^ Sparke, pp. 170–180
57. ^ ^{a b c} Lake Burley Griffin, Canberra : Policy Plan, p. 18.
58. ^ Sparke, pp. 173–174.
59. ^ ^{a b} Fitzgerald, p. 138.
60. ^ Gibbney, p. 250.
61. ^ ^{a b c} Sparke, p. 180.
62. ^ UBD Canberra, p. 6.
63. ^ ^{a b} "Australian Parliament House – 10 Years On (<http://web.archive.org/web/20100418161119/http://www.abc.net.au/news/features/aph/page01.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (1998年5月5日). 2010年4月18日時点のオリジナル (<http://www.abc.net.au/news/features/aph/page01.htm>)よりアーカイブ。2010年4月23日閲覧。
64. ^ "Election timetable – 1989 Election (http://www.elections.act.gov.au/elections/1989/timetable_89.html)". Elections ACT. 2010年4月23日閲覧。
65. ^ "Fact sheets (<http://www.legassembly.act.gov.au/education/fact-sheets.asp?nav=factsheet02#1>)". Legislative Assembly for the ACT. 2010年4月23日閲覧。
66. ^ ^{a b} "Role of the Assembly (<http://www.legassembly.act.gov.au/education/role-of-the-assembly.asp>)". Legislative Assembly for the ACT. 2010年4月23日閲覧。
67. ^ ^{a b c d} "Past Election Results (<http://www.abc.net.au/elections/act/2008/guide/pastelections.htm>)". Australian Broadcasting Corporation. 2010年1月13日閲覧。
68. ^ Jerga, Josh (2009年12月3日). "NSW boasts first female leadership team (<http://news.smh.com.au/breaking-news-national/nsw-boasts-first-female-leadership-team-20091204-k94l.html>)". *The Sydney Morning Herald*. 2010年1月13日閲覧。
69. ^ "Lady luck or lucky lady? (<http://www.queanbeyanage.com.au/news/local/news/general/lady-luck-or-lucky-lady/250543.aspx?storypage=0>)". *The Queanbeyan Age* (2002年7月19日). 2010年5月13日閲覧。
70. ^ "Canberra Nature Park (http://www.tams.act.gov.au/__data/assets/pdf_file/0006/13686/cnmapmajura.pdf)". Territory and Municipal Services (2004年). 2010年5月13日閲覧。
71. ^ ^{a b} *The Penguin Australia Road Atlas*, p. 28.
72. ^ McLeod, R. 2003. *Inquiry into the Operational Response to the January 2003 Bushfires in the ACT*. Australian Capital Territory, Canberra. ISBN 0-642-60216-6
73. ^ ^{a b} Gibbney, inside cover.
74. ^ Sparke, pp. 131–132.
75. ^ Sparke, pp. 181–182.
76. ^ "Lake Ginninderra (http://www.tams.act.gov.au/play/pcl/parks,_reserves_and_open_places/water_catchments/lakesandponds/lakeginninderra)". Territory and Municipal Services. 2010年4月23日閲覧。
77. ^ Williams, p. 260.
78. ^ Sparke, pp. 4–7, 13–14.
79. ^ (PDF) *Scrivener Dam* (http://www.nationalcapital.gov.au/downloads/education_and_understanding/factsheets/20ScrivenerDam.pdf). National Capital Authority. pp. 1–2 2009年6月2日閲覧。
80. ^ ^{a b c d e f} "Climate of Canberra Area (<http://www.bom.gov.au/weather/nsw/canberra/climate.shtml>)". Bureau of Meteorology. 2010年5月13日閲覧。
81. ^ "Australia – Climate of Our Continent (<http://www.bom.gov.au/lam/climate/levelthree/ausclim/zones.htm#two>)". Bureau of Meteorology. 2010年5月13日閲覧。
82. ^ "Climate information for Canberra Aero (http://www.bom.gov.au/cgi-bin/climate/cgi_bin_scripts/map_script_new.cgi?70014)". Bureau of Meteorology. 2010年5月13日閲覧。
83. ^ "Climate statistics for Australian locations (http://www.bom.gov.au/climate/averages/tables/cw_070014_All.shtml)". Bureau of Meteorology. 2011年9月3日閲覧。
84. ^ Wigmore, pp. 60–63.
85. ^ ^{a b} Wigmore, p. 67.
86. ^ UBD Canberra, pp. 10–120.

37. ^ [Lake Burley Griffin, Canberra : Policy Plan](#), p. 3.
38. ^ [a b c d](#) Wigmore, p. 64.
39. ^ [a b c](#) [Lake Burley Griffin, Canberra : Policy Plan](#), p. 17.
90. ^ Wigmore, pp. 64–67.
91. ^ ["Timeline Entries for William Morris Hughes \(<http://primeministers.naa.gov.au/timeline/results.aspx?type=pm&pm=William%20Morris%20Hughes>\)"](#). National Archives of Australia. 2010年5月13日閲覧。
92. ^ [UBD Canberra](#), pp. 10–60.
93. ^ Gibbney, pp. 110–200.
94. ^ ["About Weston Creek, Canberra \(<http://www.wccc.com.au/Pages/aboutweston.php>\)"](#). Weston Creek Community Council. 2010年4月23日閲覧。
95. ^ Fitzgerald, p. 167.
96. ^ [a b](#) Sparke, pp. 154–155.
97. ^ ["Diplomatic and Consular Premises – Protocol Guidelines \(\[http://www.dfat.gov.au/protocol/Protocol_Guidelines/13.html#131\]\(http://www.dfat.gov.au/protocol/Protocol_Guidelines/13.html#131\)\)"](#). Department of Foreign Affairs and Trade. 2010年4月23日閲覧。
98. ^ Johnston, Dorothy (2000年9月). ["Cyberspace and Canberra Crime Fiction \(<http://www.australianhumanitiesreview.org/archive/Issue-September-2000/johnston.html>\)"](#). *Australian Humanities Review*. 2010年5月13日閲覧。
99. ^ [a b](#) ["Role of the Assembly \(<http://www.legassembly.act.gov.au/education/role-of-the-assembly.asp>\)"](#). Legislative Assembly for the ACT (2010年). 2010年5月13日閲覧。
100. ^ ["Election Summary \(<http://www.abc.net.au/elections/act/2008/guide/summary.htm>\)"](#). Australian Broadcasting Corporation. 2010年1月13日閲覧。
101. ^ ["Turbulent 20yrs of self-government \(<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/05/11/2566162.htm>\)"](#). Australian Broadcasting Corporation (2009年5月11日). 2010年1月31日閲覧。
102. ^ [a b](#) Sparke, p. 289.
103. ^ [a b](#) ["ACT Representation \(House of Representatives\) Act 1974 \(Cth\) \(<http://www.foundingdocs.gov.au/item.asp?sdID=116>\)"](#). National Archives of Australia. 2010年1月29日閲覧。
104. ^ ["Canberra \(<http://www.abc.net.au/elections/federal/2007/guide/canb.htm>\)"](#). Australian Broadcasting Corporation (2007年12月29日). 2010年1月31日閲覧。
105. ^ ["Fraser \(<http://www.abc.net.au/elections/federal/2007/guide/fras.htm>\)"](#). Australian Broadcasting Corporation (2007年12月29日). 2010年1月31日閲覧。
106. ^ ["Senate – A.C.T. \(<http://www.abc.net.au/elections/federal/2007/guide/sact.htm>\)"](#). Australian Broadcasting Corporation (2007年11月6日). 2010年1月31日閲覧。
107. ^ [a b](#) ["Administration of National Land \(\[http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=315&Itemid=284\]\(http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=315&Itemid=284\)\)"](#). National Capital Authority (2008, 18 December). 2010年5月13日閲覧。
108. ^ ["Capital Works Overview \(\[http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=312&Itemid=281\]\(http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=312&Itemid=281\)\)"](#). National Capital Authority (2008, 23 October). 2010年5月13日閲覧。
109. ^ ["Maintenance and Operation of Assets \(\[http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=314&Itemid=283\]\(http://www.nationalcapital.gov.au/index.php?option=com_content&view=article&id=314&Itemid=283\)\)"](#). National Capital Authority (2008, 23 October). 2010年5月13日閲覧。
110. ^ ["Australian Capital Territory \(Self-Government\) Act 1988 \(\[http://www.austlii.edu.au/au/legis/cth/consol_act/acta1988482/\]\(http://www.austlii.edu.au/au/legis/cth/consol_act/acta1988482/\)\)"](#). Australasian Legal Information Institute. 2010年1月19日閲覧。
111. ^ ["Australian Capital Territory \(Self-Government\) Act 1988. Schedule 4 \(\[http://www.austlii.edu.au/au/legis/cth/consol_act/acta1988482/sch4.html\]\(http://www.austlii.edu.au/au/legis/cth/consol_act/acta1988482/sch4.html\)\)"](#). Australasian Legal Information Institute. 2010年5月13日閲覧。
112. ^ ["Frequently Asked Questions \(\[http://web.archive.org/web/20100103094447/http://www.afp.gov.au/recruitment/faqs/frequently_asked_questions_sworn.html\]\(http://web.archive.org/web/20100103094447/http://www.afp.gov.au/recruitment/faqs/frequently_asked_questions_sworn.html\)\)"](#). Australian Federal Police (2009年11月19日). 2010年1月3日時点のオリジナル (http://www.afp.gov.au/recruitment/faqs/frequently_asked_questions_sworn.html#general)よりアーカイブ。2010年1月21日閲覧。
113. ^ ["ACT Policing \(<http://web.archive.org/web/20100127071930/http://www.afp.gov.au/act.html>\)"](#). Australian Federal Police (2010年3月16日). 2010年1月27日時点のオリジナル (<http://www.afp.gov.au/act.html>)よりアーカイブ。2010年4月23日閲覧。
114. ^ ["History \(\[http://www.courts.act.gov.au/supreme/content/about_us_history.asp?textonly=no\]\(http://www.courts.act.gov.au/supreme/content/about_us_history.asp?textonly=no\)\)"](#). The Supreme Court of the ACT. 2010年4月23日閲覧。

15. ^ "General Information (http://www.courts.act.gov.au/supreme/content/about_us_general_information.asp?textonly=no)". The Supreme Court of the ACT (2008年10月16日). 2010年4月23日閲覧。
16. ^ Lavery, Jo (2009年5月21日). "The Belconnen Remand Centre (<http://www.abc.net.au/local/stories/2009/05/07/2563620.htm>)". Australian Broadcasting Corporation. 2010年4月23日閲覧。
17. ^ Kittel, Nicholas (2008年11月26日). "ACT prison built to meet human rights obligations (<http://www.abc.net.au/local/videos/2008/11/26/2430325.htm>)". Australian Broadcasting Corporation. 2010年4月23日閲覧。
18. ^ "Canberra Court List (http://www.familycourt.gov.au/wps/wcm/connect/FCOA/home/court_lists/Canberra/)". Family Court of Australia. 2010年5月13日閲覧。
19. ^ "Court Listing (<http://www.courts.act.gov.au/magistrates/TelephoneList1.htm>)". ACT Law Courts and Tribunals. 2010年5月13日閲覧。
20. ^ "Australia's unemployment rate at 5.3 per cent in January 2010: ABS (<http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/Previousproducts/6202.0Media%20Release1Jan%202010?opendocument&tabname=Summary&prodno=6202.0&issue=Jan%202010&num=&view=>)". Australian Bureau of Statistics (2010年2月11日). 2010年5月13日閲覧。
21. ^ Zappone, Chris (2010年3月11日). "Economy adds more full-time jobs" (<http://www.smh.com.au/business/economy-adds-more-fulltime-jobs-20100311-q0sp.html>). *The Sydney Morning Herald* 2010年5月13日閲覧。
22. ^ "ACT Stats, 2005 (<http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/Previousproducts/D1427AE6A791C71CCA2570D700081161?opendocument>)". Australian Bureau of Statistics (2005年9月12日). 2010年5月13日閲覧。
23. ^ ^a ^b "Full-Time Adult Average Weekly Ordinary Time Earnings Earnings – February Quarter 2010 (<http://www.treasury.act.gov.au/snapshot/AWOTE.pdf>)". ACT Department of Treasury, Economics Branch (2010年2月25日). 2010年5月13日閲覧。
24. ^ Janda, Michael (2009年10月29日). "House prices surge as rate hike looms (<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/10/29/2727042.htm>)". Australian Broadcasting Corporation. 2010年5月13日閲覧。
25. ^ "It's official: the property market has cooled (<http://web.archive.org/web/20080719140035/http://reiaustralia.com.au/media/releases.asp>)". Real Estate Institute of Australia (2010年9月9日). 2008年7月19日時点のオリジナル (<http://www.reiaustralia.com.au/media/releases.asp>)よりアーカイブ。2010年6月7日閲覧。
26. ^ "January 2004&Latest Census of Population and Housing Australia in Profile A Regional Analysis (http://www.abs.gov.au/ausstats/subscriber.nsf/log?openagent&20320_2001.pdf&2032.0&Publication&6E673B244F83579CCA257156007B9D31&0&2001&16)". Australian Bureau of Statistics (2004年). 2010年5月13日閲覧。
27. ^ "Canberra homes cheaper to buy than rent: REIA (<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/06/17/2600326.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2009年6月17日). 2010年6月7日閲覧。
28. ^ "Australian house prices surge! (<http://www.globalpropertyguide.com/Pacific/Australia/Price-History>)". Global Property Guide (2009年11月22日). 2010年5月13日閲覧。
29. ^ "Gross State Product 2008–09 (<http://www.treasury.act.gov.au/snapshot/GSP.pdf>)". ACT Department of Treasury, Economics Branch (2010年4月15日). 2010年5月13日閲覧。
30. ^ "HMAS Harman (http://www.navy.gov.au/HMAS_Harman)". Royal Australian Navy (2008年). 2010年5月13日閲覧。
31. ^ "Fairbairn: Australian War Memorial (http://www.awm.gov.au/units/place_1686.asp)". Australian War Memorial (2010年). 2010年4月23日閲覧。
32. ^ "RAAF Museum Fairbairn (<http://www.airforce.gov.au/raafmuseum/research/bases/fairbairn.htm>)". RAAF Museum (2009年). 2010年5月13日閲覧。
33. ^ "No 34 Squadron (<http://www.airforce.gov.au/raafmuseum/research/units/34sqn.htm>)". RAAF Museum (2009年). 2010年5月13日閲覧。
34. ^ Sutherland, Tracy (2007年1月15日). "USFTA begins to reap results (<http://www.tradewatch.org.au/AUSFTA/Article43.html>)". *Australian Financial Review*. 2010年6月17日閲覧。
35. ^ Sharma, Mahesh (2008年4月2日). "HP bids for Tower Software (<http://www.theaustralian.com.au/australian-it/hp-bids-for-tower-software/story-e6frgamo-1111115951854>)". *The Australian*. 2010年6月17日閲覧。
36. ^ Colley, Andrew (2007年10月2日). "HP bids for Tower Software (<http://www.theaustralian.com.au/australian-it/canberra-a-data-hub-target/story-e6frgamo-1111114545957>)". *The Australian*. 2010年6月17日閲覧。
37. ^ ^a ^b ^c ^d Australian Bureau of Statistics (2007年10月25日). "Community Profile Series : Canberra (Statistical Division) (<http://www.censusdata.abs.gov.au/ABSNavigation/prenav/ProductSelect?newproducttype=Community+Profiles&collection=Census&period=2006&a>

- reacode=805&breadcrumb=LP¤taction=201&action=401)". *2006 Census of Population and Housing*. 2009年1月24日閱覽。
38. ^ a b c d "2006 Census QuickStats : Canberra (Statistical Division) (<http://www.censusdata.abs.gov.au/ABSNavigation/prenav/LocationSearch?collection=Census&period=2006&areacode=805&producttype=QuickStats&breadcrumb=PL&action=401>)". Australian Bureau of Statistics (2007年10月25日). 2010年4月23日閱覽。
39. ^ "Australian Demographic Statistics, Dec 2002 (<http://www.abs.gov.au/Ausstats/abs@.nsf/0/812343b3e6694d5dca256d3c0001f4c9?OpenDocument>)". Australian Bureau of Statistics (2003年6月5日). 2010年6月7日閱覽。
40. ^ "ACT Stats, 2005 (<http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/Previousproducts/7CFF60A340838861CA2570D700081159?opendocument>)". Australian Bureau of Statistics (2005年2月14日). 2010年6月7日閱覽。
41. ^ "University of Canberra (<http://www.goingtouni.gov.au/Main/CoursesAndProviders/ProvidersAndCourses/HigherEducationProviders/ACT/UniversityOfCanberra.htm>)". Department of Education, Employment and Workplace Relations. 2010年4月23日閱覽。
42. ^ a b "Australian National University (<http://www.goingtouni.gov.au/Main/CoursesAndProviders/ProvidersAndCourses/HigherEducationProviders/ACT/AustralianNationalUniversity.htm>)". Department of Education, Employment and Workplace Relations. 2010年4月23日閱覽。
43. ^ Gibbney, pp. 258–262.
44. ^ "Academic Ranking of World Universities 2004 (<http://ed.sjtu.edu.cn/rank/2004/2004Main.htm>)". Institute of Higher Education, Shanghai Jiao Tong University (2005年). 2010年5月13日閱覽。
45. ^ "Canberra Campus (http://www.acu.edu.au/about_acu/our_campuses/canberra_campus/)". Australian Catholic University (2010年5月5日). 2010年5月13日閱覽。
46. ^ "Canberra School of Theology (<http://www.csu.edu.au/about/canberra.html>)". Charles Sturt University. 2010年4月23日閱覽。
47. ^ "Australian Defence College (<http://www.defence.gov.au/adcl/>)". Australian Defence College. 2010年4月23日閱覽。
48. ^ "Campbell (<http://northcanberra.org.au/suburbs/campbell/>)". North Canberra Community Council. 2010年4月23日閱覽。
49. ^ "The Program (<http://www.defence.gov.au/adfa/about/program.html>)". Australian Defence Force Academy. 2010年4月23日閱覽。
50. ^ "Introduction (<http://www.unsw.adfa.edu.au/about/index.html>)". Australian Defence Force Academy (2009年4月2日). 2010年4月23日閱覽。
51. ^ "Officer Training (<http://www.defencejobs.gov.au/army/Training/officer.aspx>)". Defence Jobs. 2010年4月23日閱覽。
52. ^ "Campus Maps (<http://www.cit.act.edu.au/about/organisation/maps/>)". Canberra Institute of Technology (2010年2月25日). 2010年4月23日閱覽。
53. ^ Barr, Andrew (2007年). "Towards 2020: Renewing Our Schools – Message from the Minister (<http://activated.act.edu.au/2020/>)". ACT Department of Education and Training. 2005年5月13日閱覽。
54. ^ "Closing date for primary school (<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/10/29/2727379.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2009年10月29日). 2010年5月10日閱覽。
55. ^ "Tharwa, Hall schools should be reopened: committee (<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/09/17/2688701.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2009年9月17日). 2010年5月13日閱覽。
56. ^ "School closures report 'doesn't go far enough' (<http://www.abc.net.au/news/stories/2009/09/18/2689533.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2009年9月18日). 2010年5月13日閱覽。
57. ^ *UBD Canberra*, pp. 1–90.
58. ^ a b c d e "Lake Burley Griffin Interactive Map (<http://www.nationalcapital.gov.au/enjoythelake/map.asp>)". National Capital Authority. 2009年6月1日閱覽。
59. ^ "Opening hours (<http://www.naa.gov.au/info/opening-hours/index.aspx>)". National Archives of Australia. 2010年4月23日閱覽。
60. ^ "Opening hours (<http://www.naa.gov.au/info/opening-hours/index.aspx>)". National Archives of Australia. 2010年4月23日閱覽。
61. ^ "The Shine Dome (<http://www.science.org.au/dome/>)". Australian Academy of Science. 2010年4月23日閱覽。
62. ^ "Visiting the High Court (http://www.highcourt.gov.au/about_05.html)". High Court of Australia. 2010年4月23日閱覽。
63. ^ "Visitors (<http://www.aph.gov.au/visitors/index.htm>)". Parliament of Australia. 2010年4月23日閱覽。
64. ^ "Opening hours (<http://www.ramint.gov.au/visit/>)". Royal Australian Mint. 2010年4月23日閱覽。
65. ^ "Outdoor and Nature (<http://www.visitcanberra.com.au/Things%20to%20do%20and%20see/Outdoor%20and%20nature.aspx?currentPage=2&category=&l>)". Visit Canberra. 2010年4月23日閱覽。
66. ^ Germaine, pp. 756–758, 796–797, 809–810, 814–815, 819–820, 826–827, 829–830.
67. ^ "Lanyon (<http://www.museumsandgalleries.act.gov.au/lanyon/index.html>)". ACT Museums and Galleries. 2010年5月13日閱覽。

58. ^ "Minders of Tuggeranong Homestead (<http://www.events.act.gov.au/?/event/view/225>)". Chief Minister's Department. 2010年5月13日閲覧。
59. ^ "Mugga-Mugga (<http://www.museumsandgalleries.act.gov.au/mugga/index.html>)". ACT Museums and Galleries. 2010年5月13日閲覧。
70. ^ "Calthorpes' House (<http://www.museumsandgalleries.act.gov.au/calthorpes/index.html>)". ACT Museums and Galleries. 2010年5月13日閲覧。
71. ^ ^a ^b Daly, Margo (2003). *Rough Guide to Australia*. Rough Guides. p. 67. ISBN 1-84353-090-2.
72. ^ "Fact sheets (<http://www.naa.gov.au/about-us/publications/fact-sheets/fs250.aspx>)". National Archives of Australia. 2010年4月23日閲覧。
73. ^ ^a ^b Vaisutis, p. 278.
74. ^ Vaisutis, pp. 283–285.
75. ^ *UBD Canberra*, pp. 10–12.
76. ^ "Canberra's international relationships (<http://www.cmd.act.gov.au/international>)" (英語). Chief Minister's Department. 2019年1月3日閲覧。
77. ^ "Festival celebrates Canberra-Nara friendship (<http://www.abc.net.au/news/stories/2008/09/26/2375107.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2008年9月26日). 2010年4月23日閲覧。
78. ^ "Canberra Nara Candle Festival (<http://www.canberratimes.com.au/eventdetails/canberra-nara-candle-festival/34260.aspx>)". *The Canberra Times*. 2010年4月23日閲覧。
79. ^ "Canberra Nara Park (http://www.tams.act.gov.au/play/parks_conservation_and_lands/parks_reserves_and_open_places/parkslake_sandponds/urbanparks/districtparks/canberranarapark#location)". Territory and Municipal Services (1999年10月9日). 2010年5月13日閲覧。
80. ^ "Brumbies Crowned Super 12 Champions." (http://web.archive.org/web/20071013130431/http://irishrugby.ie/6855_3684.php). Irish Rugby. (2004年5月22日). オリジナル (http://www.irishrugby.ie/6855_3684.php)の2007年10月13日時点によるアーカイブ。2007年10月8日閲覧。
81. ^ "Premiership Records. (<http://www.raiders.com.au/2008/history/records.php>)". Canberra Raiders. 2009年2月22日閲覧。
82. ^ "Canberra Stadium" (<http://www.ais.org.au/facilities/stadium.asp>). Australian Institute of Sport 2007年10月8日閲覧。
83. ^ "Sydney 2000:Football" (<http://web.archive.org/web/20070803175201/http://www.abc.net.au/news/olympics/sports/football.htm>). Australian Broadcasting Corporation. (1999年). オリジナル (<http://www.abc.net.au/news/olympics/sports/football.htm>)の2007年8月3日時点によるアーカイブ。2007年10月8日閲覧。
84. ^ "Complete draw for 2003 Rugby World Cup" (<http://www.abc.net.au/rugbyunion/worldcup/2003/draw/default.htm>). Australian Broadcasting Corporation. (2003年) 2007年10月8日閲覧。
85. ^ "Caps take WNBL championship" (<http://www.abc.net.au/news/stories/2010/03/06/2838446.htm?site=news>). Australian Broadcasting Corporation. (2007年2月17日) 2007年10月8日閲覧。
86. ^ "Canberra downs Roar to clinch W-League title" (<http://www.abc.net.au/news/2012-01-28/united-down-roar-to-clinch-title/3798330>). Australian Broadcasting Corporation. (2012年1月31日) 2012年2月3日閲覧。
87. ^ Hinds, Richard (2005年4月1日). "Kangaroos finding capital gains taxing" (<http://www.smh.com.au/news/AFL/Kangaroos-finding-capital-gains-taxing/2005/03/31/1111862534238.html>). *The Sydney Morning Herald* 2007年10月8日閲覧。
88. ^ "Dogs, Demons to play in Canberra" (<http://web.archive.org/web/20071013112123/http://abc.net.au/news/items/200608/1716460.htm?canberra>). Australian Broadcasting Corporation. (2006年8月16日). オリジナル (<http://abc.net.au/news/items/200608/1716460.htm?canberra>)の2007年10月13日時点によるアーカイブ。2007年10月9日閲覧。
89. ^ "Who Rules, Aussie Rules!" (<http://www.afl.com.au/GameDevelopment/International/tabid/285/Default.aspx>). AFL. (2007年2月15日) 2007年10月8日閲覧。
90. ^ Growden, pp. 200–210.
91. ^ "Title winners head to Canberra" (<http://www.tennis.com.au/pages/article.aspx?id=6042&articleid=ArticleID200617161324&pageId=9953&HandlerId=1>). Tennis Australia. (2006年1月7日) 2007年10月8日閲覧。
92. ^ ^a ^b Sparke, p. 304.
93. ^ "History and successes" (<http://www.ausport.gov.au/ais/history>). Australian Institute of Sport 2007年10月8日閲覧。
94. ^ "Boating on Lake Burley Griffin (http://web.archive.org/web/20070923025439/http://www.nationalcapital.gov.au/visiting/lake_burley_

- griffin/boating/". National Capital Authority. 2007年9月23日時点のオリジナル (http://www.nationalcapital.gov.au/visiting/lake_burley_griffin/boating/)よりアーカイブ。2007年10月9日閲覧。
95. ^ "Lake Burley Griffin reopens (<http://www.abc.net.au/news/stories/2007/11/16/2093294.htm>)". *ABC News*. Australian Broadcasting Corporation (2007年11月16日). 2010年7月26日閲覧。
96. ^ "Canberra Dragway Frequently Asked Questions" (http://www.tams.act.gov.au/__data/assets/pdf_file/0004/43069/act_dragway_faq_feb200620.pdf) (PDF). ACT Government. (2006年2月21日) 2007年10月8日閲覧。
97. ^ "Possum Bourne" (<http://www.abc.net.au/stateline/act/content/2003/s847002.htm>). Australian Broadcasting Corporation. (2003年5月3日) 2007年10月8日閲覧。
98. ^ ^a ^b "Hospitals (<http://www.health.act.gov.au/c/health?a=da&did=10134232&pid=1147829186>)". ACT Health. 2010年4月23日閲覧。
99. ^ "Canberra Hospital (<http://health.act.gov.au/c/health?a=da&did=10209377>)". ACT Health. 2010年4月23日閲覧。
100. ^ ^a ^b "Contact Us & Location Map (<http://web.archive.org/web/20100323231918/http://www.calvary-act.com.au/contact.html>)". Calvary Health Care ACT. 2010年3月23日時点のオリジナル (<http://www.calvary-act.com.au/contact.html>)よりアーカイブ。2010年4月23日閲覧。
101. ^ "Public Hospital (<http://web.archive.org/web/20080718171953/http://www.calvary-act.com.au/public.html>)". Calvary Health Care ACT. 2008年7月18日時点のオリジナル (<http://www.calvary-act.com.au/public.html>)よりアーカイブ。2010年4月23日閲覧。
102. ^ Cronin, Fiona (2008年8月12日). "Chemo crisis to hit ACT patients (<http://www.canberratimes.com.au/news/local/news/general/chemo-crisis-to-hit-act-patients/1241514.aspx>)". *The Canberra Times*. 2010年4月23日閲覧。
103. ^ "Welcome to Calvary John James Hospital (<http://www.calvaryjohnjames.com.au/>)". Calvary John James Hospital. 2010年4月23日閲覧。
104. ^ Reynolds, Fiona (1999年11月5日). "Increasing pressure on ACT Chief Minister" (<http://www.abc.net.au/am/stories/s64319.htm>). *A.M.* (Australian Broadcasting Corporation) 2009年6月2日閲覧。
105. ^ "About Emergency (<http://health.act.gov.au/c/health?a=da&did=10063975&pid=1082945856>)". ACT Government Health Information. 2010年4月23日閲覧。
106. ^ "About Us (http://www.esa.act.gov.au/ESAWebsite/content_esa/about_us/about_us_home_page/about_us.html)". ACT Emergency Services Authority. 2010年4月23日閲覧。
107. ^ "What is NETS? (<http://web.archive.org/web/20071223110451/http://www.nets.org.au/main/what.htm>)". Newborn Emergency Transport Service. 2007年12月23日時点のオリジナル (<http://www.nets.org.au/main/what.htm>)よりアーカイブ。2010年4月23日閲覧。
108. ^ ^a ^b "Canberra's transport system (<http://www.aph.gov.au/house/committee/ncet/natcapauth/report/chapter9.pdf>)  (PDF)". Parliament of Australia. 2010年4月23日閲覧。
109. ^ *The Penguin Australia Road Atlas*, pp. 23–25.
110. ^ *The Penguin Australia Road Atlas*, pp. 23–25.
111. ^ "ACT Road Hierarchy (http://www.tams.act.gov.au/move/roads/road_safety/speedandspeeding/act_road_hierarchy)". Territory and Municipal Services (2008年4月14日). 2010年4月23日閲覧。
112. ^ "Survey shows speeding at disputed camera site (<http://www.chiefminister.act.gov.au/media.php?v=5787&s=29>)". Chief Minister's Department (2007年7月17日). 2010年4月23日閲覧。
113. ^ "Speeding (http://www.afp.gov.au/act/road_traffic/speeding.html)". Australian Federal Police (2008年5月20日). 2010年4月23日閲覧。
114. ^ *UBD Canberra*, pp. 57, 67, 77.
115. ^ *UBD Canberra*, pp. 1–100.
116. ^ "About Us (http://www.action.act.gov.au/about_us.html)". ACTION (2008年7月18日). 2010年4月23日閲覧。
117. ^ "About Us (<http://www.transborder.com.au/aboutus.html>)". Transborder Express. 2010年4月23日閲覧。
118. ^ "About Us (<http://www.deanesbuslines.com.au/aboutus.html>)". Deane's Buslines (2010年2月4日). 2010年4月23日閲覧。
119. ^ "Taxi company 'not concerned' at losing monopoly (<http://www.abc.net.au/news/stories/2007/02/03/1839551.htm>)". Australian Broadcasting Corporation (2007年2月3日). 2010年4月23日閲覧。
120. ^ "Timetables (<http://www.countrylink.info/timetables/>)". CountryLink. 2010年4月23日閲覧。
121. ^ "Travel pass agencies (http://www.countrylink.info/travel_passes/travelpass_agencies/)". CountryLink (2009年12月14日). 2010年4月23日閲覧。
122. ^ Shellshear, Walter M.. "Railways" (<http://www.engineer.org.au/chapter02.html>). *Canberra's Engineering Heritage*. Engineers

Australia 2010年6月7日閲覧。

23. ^ "Network map (http://www.countrylink.info/timetables/network_map)". [CountryLink](#). 2010年4月23日閲覧。
24. ^ ^a ^b ^c *The Penguin Australia Road Atlas*, p. 20.
25. ^ Richardson, Michael (2000年7月19日). "Sydney to Canberra in 80 Minutes—by High-Speed Train (<http://www.nytimes.com/2000/07/19/business/worldbusiness/19iht-ausrail.2.t.html>)". *New York Times*. 2010年6月7日閲覧。
26. ^ "Oz HSR Received? (<http://eriksrailnews.com/archive/hst2.html>)". *The Australian* (2002年10月29日). 2010年6月7日閲覧。
27. ^ Somer, Belinda (2001年6月14日). "Govt considers rail link between eastern cities (<http://www.abc.net.au/pm/stories/s312944.htm>)". Australian Broadcasting Corporation. 2010年6月7日閲覧。
28. ^ Gibbney, pp. 58, 76.
29. ^ ^a ^b *The Penguin Australian Road Atlas*, inside cover.
30. ^ "Departures (http://www.canberraairport.com.au/air_flight_info/departures.cfm)". Canberra International Airport. 2010年5月13日閲覧。
31. ^ Hogan, Richard (July 2003). "Farewell to Fairbairn". *Air Force* (Royal Australian Air Force) **45** (12).
32. ^ "Company Profile (<http://www.actew.com.au/about/profile.aspx>)". ACTEW. 2010年4月23日閲覧。
33. ^ "Wastewater Networks (<http://www.actewagl.com.au/wastewater/default.aspx>)". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
34. ^ "Our company (<http://www.actewagl.com.au/about/company/default.aspx>)". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
35. ^ "Water Catchment (<http://www.actewagl.com.au/water/catchment/default.aspx>)". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
36. ^ "North Canberra Water Reuse Scheme (NCWRS) (<http://www.actewagl.com.au/wastewater/reuse/northcanberra.aspx>)". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
37. ^ "Lower Molonglo Water Quality Control Centre (LMWQCC) effluent reuse scheme (<http://www.actewagl.com.au/wastewater/reuse/lowermolonglo.aspx>)". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
38. ^ Independent Competition and Regulatory Commission (2003年10月). "Review of Contestable Electricity Infrastructure Workshop (http://www.icrc.act.gov.au/__data/assets/pdf_file/0007/16792/issuespaperelecincontestabilityoctober03.pdf)​ (PDF)". p. 13. 2010年5月10日閲覧。
39. ^ " (<http://www.actewagl.com.au/about/hydro.aspx>)ActewAGL". ActewAGL. 2010年4月23日閲覧。
40. ^ "Renewable Gas Sources (<http://www.actewagl.com.au/Education/energy/NonRenewableEnergy/NaturalGas/RenewableGasSources.aspx>)". ActewAGL (2009年6月11日). 2010年4月23日閲覧。
41. ^ "The Founding of Canberra". *The Sydney Morning Herald*: p. 5. (1913年3月14日)
42. ^ "ACT has highest rate of eCensus returns (<http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/mediareleasesbyReleaseDate/49A64B934C728DCCCA2571C70004BE20?OpenDocument>)". Australian Bureau of Statistics (2006年8月11日). 2010年5月13日閲覧。

参考文献

- *Lake Burley Griffin, Canberra: Policy Plan*. Canberra: National Capital Development Commission. (1988). ISBN 0-642-13957-1.
- *The Penguin Australia Road Atlas*. Ringwood, Victoria: Penguin Books Australia. (2000). ISBN 0-670-88980-6.
- *UBD Canberra*. North Ryde, New South Wales: Universal Publishers. (2007). ISBN 0-7319-1882-7.
- Fitzgerald, Alan (1987). *Canberra in Two Centuries: A Pictorial History*. Torrens, Australian Capital Territory: Clareville Press. ISBN 0-909278-02-4.
- Gibbney, Jim (1988). *Canberra 1913–1953*. Canberra: Australian Government Publishing Service. ISBN 0-644-08060-4.
- Gillespie, Lyall (1991). *Canberra 1820–1913*. Canberra: Australian Government Publishing Service. ISBN 0-644-08060-4.
- Growden, Greg (2008). *Jack Fingleton: The Man Who Stood Up To Bradman*. Crows Nest, New South Wales: Allen & Unwin. ISBN 978-1-74175-548-0.
- Sparke, Eric (1988). *Canberra 1954–1980*. Canberra: Australian Government Publishing Service. ISBN 0-644-08060-4.
- Vaisutis, Justine (2009). *Australia*. Footscray, Victoria: Lonely Planet. ISBN 1-74179-160-X.
- Wigmore, Lionel (1971). *Canberra: History of Australia's National Capital*. Canberra: Dalton Publishing Company. ISBN 0-909906-06-8.
- Williams, Dudley (2006). *The Biology of Temporary Waters* (<http://books.google.com/books?id=xSv2HvrNSo0C>). Oxford: Oxford University Press. ISBN 0-19-852811-6.

外部リンク

公式

- [ACT政府 \(http://www.act.gov.au/index.jsp\)](http://www.act.gov.au/index.jsp)（英語）

日本政府

- [在オーストラリア日本国大使館 \(http://www.au.emb-japan.go.jp/\)](http://www.au.emb-japan.go.jp/)（英語）

観光

- [キャンベラ観光局 \(http://www.visitcanberra.com.au/\)](http://www.visitcanberra.com.au/)（英語）
- [オーストラリア政府観光局 - キャンベラ \(http://www.australia.com/jp/destinations/cities/canberra.aspx\)](http://www.australia.com/jp/destinations/cities/canberra.aspx)（日本語）
- [オーストラリア政府観光局 教育旅行公式サイト ー首都についてー \(http://school.australia.jp/about/australia/region/capital.php/\)](http://school.australia.jp/about/australia/region/capital.php/)（日本語）

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=キャンベラ&oldid=74670709>」から取得

最終更新 2019年10月18日 (金) 10:25（日時は[個人設定](#)で未設定ならばUTC）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。